

大阪高等裁判所 第一民事部 裁判長 小島 浩 殿
裁判官 大西嘉彦 殿
裁判官 橋本都月 殿

国とクボタの責任を問う尼崎アスベスト訴訟控訴審 いのちと健康を尊重する 公平、公正な判決を求めます

2005年6月末の、いわゆる「クボタショック」から7年が経過しました。

クボタ旧神崎工場周辺の被害者は、クボタが認定しただけで232人に及びます(2012年3月末現在)。潜伏期間が20~50年と言われていることからすると、今後も数十年にわたって犠牲者が増え続けます。

クボタ周辺に居住または勤務し、悪性胸膜中皮腫で死亡した2人の遺族が、国とクボタの責任を問うべく、神戸地方裁判所に提訴しました。2012年8月7日の地裁判決は、公害型のアスベスト裁判で全国で初めて加害企業の責任を認めた画期的なものでした、しかし、クボタからのアスベスト飛散範囲を科学的論文の結果を無視して狭く認定し、1遺族に対してはクボタの責任を認めて損害賠償を命じたものの、1kmを超えて居住していた1遺族に対しては責任を認めず、国の責任は不問とするという不当なものでした。

クボタの石綿による被害は1,500mの範囲を超えて広がっていたことは科学的論文の結果からも明らかであるし、国は、アスベストによる工場周辺住民の被害を認識しながら、産業発展を優先し、アスベストについての規制や対策を長期間にわたって怠ってきたことも明らかです。

私たちは、貴裁判所が、深刻なアスベスト被害に正面から向き合い、国民のいのちと健康を尊重する、公平かつ公正な判決を下されるよう強く要望します。

氏名	住所

* この署名用紙に記入された情報は、個人情報として適切に管理します。

<取扱い団体> 兵庫県保険医協会

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5階 電話 078-393-1801

兵庫県保険医協会 349号 2013年10月25日付 尼崎支部ニュース

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック内
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

尼崎アスベスト訴訟(環境型)・控訴審が結審

国とクボタの責任を認める公正な判決を



船越会長が結審後の集会で力強く支援を呼びかけた

尼崎市内のクボタ旧神崎工場周辺で環境曝露によるアスベスト被害で中皮腫を発症して死亡したとして、遺族がクボタと国に謝罪と損害賠償を訴えている環境型裁判は、10月9日に大阪高裁で結審した。

100人の支援者が大法廷の傍聴席を埋め、マスコミ関係者もつめかけるなど、関心の高さが示された。協会からは八木秀満尼崎支部支部長と事務局2人が参加した。

弁護団は最終弁論で、「国は遅くとも昭和47年には工場近隣での健康被害の危険性について認識できた」と指摘した上で、「国は大気汚染防止法に基づく規制をすべき義務があった」と述べた。また、工場内で大量かつ長期にわたって飛散した石綿が、工場の壁を乗り越えて周辺に大量に飛散していた事実を指摘、「石綿による被害は少なくとも工場から1.5kmに及んでいることは明らかである」と述べ、クボタの責任を追及した。

終了後に開かれた、協会尼崎支部も参加する「アスベスト被害からいのちと健康を守る会」報告集会では、原告の保井さん・山内さんがあらためて支援を訴えた。また、守る会会長・船越正信先生(尼崎医療生協理事長)は「提訴から6年半が経過したが、支援いただいた全国みなさんに感謝申し上げたい。判決は来年3月6日に決まった。公平・公正な判決を求める署名は目標10万筆に対し7万筆に達し、一審での署名数を超えた。さらなる支援をお願いしたい」と力強く述べた。

署名にご協力いただける先生は協会事務局までご一報下さい。4面の署名用紙をご活用ください。署名用紙、返信用封筒をご希望の場合は事務局までご連絡下さい。

真の生存権保障確立のために今すべきこと



記念講演の講師は尾藤廣喜弁護士

尼崎社会保障推進協議会は、10月20日に尼崎中央公民館で定期総会を開催した。記念講演では「真の生存権保障確立のために一人間らしく生きるために今すべきこと」と題して、日本弁護士連合会貧困問題対策本部長・生活保護問題対策全国会議代表幹事の尾藤廣喜弁護士が講演し、多数の市民が参加した。

尾藤弁護士は、「貧困を克服するために、最も大事なことは雇用・賃金の問題」として、日本の貧弱な社会保障制度のために生活保護に過大な負担がおしかかっていると指摘。日本の生活保護捕提率の低さを示して、「社会保障は国の義務であり国民の権利。ナショナルミニマムと直結した生活保護問題は国民全体の問題」と強調した。また、受給者へのジェネリック使用の誘導については、「劣等処遇の強制であり、戦後の健康保険の根幹を揺るがす大問題」と、断固反対の姿勢を表した。最後に、「本来は働いたらまともな賃金が支払われて生活ができればならない。各分野でさらに連帯を広げていきたい」と力説した。

総会議事では、市民生活を支援し社会保障制度の改善を目指すことなどを活動の柱とした次年度活動方針が提案・採択された。また、会長が畠中正昭先生(支部幹事)から八木秀満先生(支部長)に交代した。

県塚の会 第6回総会

県立尼崎・塚口病院を統合した新県立病院「尼崎総合医療センター」建設が、2015年5月開院をめざしてすすまられています。

「県立塚口病院の充実と尼崎市及び阪神地域の医療を考える会(略称・県塚の会)」は、2008年、県が塚口病院を廃止する計画を発表した際、8万人の署名を集めて計画を変更させたのはじめ、新病院建設にあたって救急医療、小児・周産期医療、災害拠点病院の機能など、医療内容の充実を求めて、県病院局に要望、交渉を繰り返し実現してきました。現病院跡には医療機関や福祉施設を誘致するよう取り組みを強めています。

これまでの取り組みに確信をもって、さらに医療を充実させるために、県塚の会第6回総会を開催いたします。

誘い合っでご参加くださいますようお願いいたします。

日時 11月9日(土)午後2時より

場所 旧尼崎労働福祉会館中ホール

主催 県立塚口病院の充実と尼崎市及び阪神地域の医療を考える会

代表 畠中正昭(医師)

連絡先 尼崎市若王寺2丁目20-8-202(徳田気付) ☎090-1964-4420

第22回日常診療経験交流会

メインテーマ「日常診療～思いえがく夢～」

日時 10月27日(日)10時～17時

会場 神戸市産業振興センター9・10階(JR神戸駅より南へ徒歩7分)

◇分科会 10時～14時 日常診療、在宅ケアの経験など

◇特別企画 展示「今さら聞けない、教えて」医科・歯科・薬科の連携へ他科に聞いてみたいちょっとした疑問を募集中

◇医科・歯科・薬科交流企画「多剤投与の現状」14時30分～17時

【医科】兵庫医科大学 内科学総合診療科 教授 森本 剛先生

【歯科】かわむら歯科(伊丹市)院長 川村 雅之先生

※ビデオ講演 大阪大学大学院歯学研究科顎口腔機能治療学教室 教授 阪井 丘芳先生

【薬科】近畿大学 薬学部 教授 松山 賢治先生

◇—いざという時のために— 救急フェスタ CPR 講習会 13時～14時30分

◇展示コーナー 10時～16時

ポスターセッション、医院新聞、会員作品展、情報ネットワークコーナー、薬価部企画、業者展示ほか

※先着220名様に、兵庫県下各地の特産品をお土産としてお持ち帰りいただきます。

お申し込み・お問い合わせは、☎078-393-1803 研究部まで

兵庫県保険医協会

第84回評議員会

日時 11月17日(日)

議事 12時30分～ 協会会議室

特別講演 15時30分～ 神戸朝日ホール

テーマ「この国の政治と平和の危機をどうみるか」

講師 野中 広務 氏(元自民党幹事長)

お申込み・お問い合わせは、☎078-393-1801 まで

第478回幹事会だより

10月18日(金)於 阪急塚口「遠山」 参加：4人

○尼崎支部の会員数と組織率

10/17現在 医科378人、歯科142人

○医療をめぐる情勢と運動対策

当面の支部活動のほか、県立病院問題、有床診療所の経営について意見交換した。

○次回の幹事会

11月22日(金)に武庫之荘で開催。

お問い合わせはTEL 078-393-1805 長澤まで